

基礎看護学実習

1. 実習目的

基礎看護学で学んだ理論や看護の方法を臨床の場面において体験することにより、成人・老年・小児・母性・精神看護学実習、在宅看護論・統合看護実習に発展していくための基礎的能力を養う。

2. 基礎看護学実習Ⅰ目的

看護の対象者を知り、対象に応じた日常生活の援助ができるための基礎的能力を身につける。

3. 基礎看護学実習Ⅱ目的

問題解決思考の過程に沿って、看護実践ができる基礎的能力を身につける。

4. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
1年次	基礎看護学実習Ⅰ	病院実習	6日間	1単位(45時間)
2年次	基礎看護学実習Ⅱ		6日間	1単位(45時間)

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

5. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者が ABCD で総合的に評価を行う。

基礎看護学実習Ⅰ

1. 基礎看護学実習Ⅰ 目的

看護の対象者を知り、対象に応じた日常生活の援助ができるための基礎的能力を身につける。

2. 基礎看護学実習Ⅰ 目標

- 1) 対象者に起きている健康問題について生活の視点から考えることができる。
- 2) 生活の視点から対象者の1日の目標が考えられる。
- 3) 得られた情報から対象者の日常生活の援助を考えることができる。
- 4) 日常生活の援助が原理・原則をふまえて実施できる。
- 5) 日常生活援助後に振り返りができる。
- 6) 日常生活援助に必要な観察が実施できる。
- 7) 対象者と適切なコミュニケーションをとることができる。
- 8) 看護者としての基礎的態度を身につける。

3. 行動目標

目 標	行 動 目 標
1. 対象者に起きている健康問題について生活の視点から考えることができる。	1) 対象者の健康問題に関する情報を収集し、項目ごとに記述できる。 2) 対象者の健康問題の受け止め方について説明できる。 3) 入院前後の日常生活の変化が説明できる。 4) 入院前後の日常生活の変化について入院・治療・病態生理・ADLの自立度から説明できる。
2. 生活の視点から対象者の1日の目標が考えられる。	5) 対象者の状態に沿った1日の目標が考えられる。
3. 得られた情報から日常生活の援助を考えることができる。	6) 得られた情報から日常生活援助の必要性和目的が考えられる。 7) 援助の必要性和目的に応じた日常生活援助の方法と留意点が考えられる。
4. 日常生活の援助が原理・原則をふまえて実施できる。	8) 室温・空気の調整及び対象者に配慮した病床とその周辺への療養環境の調整ができる。 9) 日常生活の援助が原理・原則をふまえて実施できる。 *日常生活の援助：資料1参照 10) 日常生活の援助が対象者及び実施者の安全・安楽を考慮して実施できる。 11) スタンダードプリコーションに準じた行動がとれる。
5. 日常生活援助後に振り返りができる。	12) 日常生活援助後に援助の目的と方法について振り返りができる。
6. 日常生活援助に必要な観察が実施できる。	13) 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定ができる。 14) 実施前・中・後の観察の必要性和その根拠が言える。 15) 実施前・中・後の対象者の観察ができる。
7. 対象者と適切なコミュニケーションをとることができる。	16) 対象者と日常生活援助を行うためのコミュニケーションがとれる。 17) 観察やコミュニケーションを通して感じたことや考えたことを具体的に説明できる。
8. 看護者としての基礎的態度を身につける。	18) 時間・約束を守ることができる。 19) 必要な学習課題をやりとげることができる。 20) 他者を尊重した態度がとれる。 21) 報告・連絡・相談ができる。 22) 自己の健康管理ができる。 23) 自己の考えや意見を他者に表現できる。 24) 用途や対象者に応じた適切な言葉を使うことができる。 25) 実習グループでの協力ができる。

基礎看護学実習Ⅱ

1. 基礎看護学実習Ⅱ 目的

問題解決思考の過程に沿って、看護実践ができる基礎的能力を身につける。

2. 基礎看護学実習Ⅱ 目標

- 1) 看護過程の展開技術を受け持ち患者に適用し、看護上の問題解決方法がわかる。
- 2) 観察やコミュニケーション技術を駆使し、得られた情報から対象理解に努める。
- 3) 看護の実際が安全・安楽を考慮して実施できる。

3. 行動目標

目 標	行 動 目 標
1. 看護過程の展開技術を受け持ち患者に適用し、看護上の問題解決方法がわかる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の病態生理や行われている治療などについて理解できる。 2) 必要な情報の分類・整理ができる。 3) 情報の正常・異常を判断し、異常の原因・誘因から対象者の健康状態がアセスメントできる。 4) 対象者の健康状態から成り行き・予測についてアセスメントできる。 5) 看護上の問題点が明確化できる。(1つは看護診断で表現) 6) 看護上の問題の優先順位が判断できる。 7) 看護目標と期待する結果があげられる。 8) 実施可能な具体策を観察・援助・指導に分けて立案できる。 9) 実施したことを SOAP で表現できる。 10) 期待する結果の評価ができる。 11) 本日の実習目標が立てられる。
2. 観察やコミュニケーション技術を駆使し、得られた情報から対象理解に努める。	<ol style="list-style-type: none"> 12) 対象者に起きている症状の観察ができる。 13) 観察やコミュニケーションを通して対象者の全体像をとらえ説明できる。 14) 観察したことを専門用語を用いて報告することができる。
3. 看護の実際が安全・安楽を考慮して実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> 15) 対象者の状態に応じた援助が安全・安楽に実施できる。 16) 対象者の安全・安楽を考慮した療養環境の調整ができる。 17) スタンダードプリコーションに準じた行動がとれる。

成人看護学実習

1. 実習目的

成人期にある対象者を総合的に理解し、あらゆる健康レベル、健康障害のある対象者および家族の看護を科学的に実践できる基礎的能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 成人各期の発達段階・発達課題を理解した上で、対象者の特徴を理解することができる。
- 2) 健康障害のある対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。
- 3) 対象者の健康レベル、健康障害と生活習慣・生活歴・現在の生活の関連を考えることができる。
- 4) 対象者に応じた看護の方向性を考えることができる。
- 5) 対象者の状態に応じた援助計画が立案でき、実践ができる。
- 6) 看護を行なう者としての基本的態度を養う。

3. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
3年次	成人看護学実習	病院実習	12日間	2単位(90時間)

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者がA B C Dで総合的に評価を行う。

5. 行動目標

実 習 目 標	行 動 目 標
1. 成人各期の発達段階・発達課題を理解した上で、対象者の特徴を理解することができる。	1) 対象者の発達段階・発達課題・特徴を述べることができる。
2. 健康障害のある対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。	1) 対象者の現在の思い（病状・治療への思い）がわかる。 2) 対象者の社会的側面とサポートシステムがわかる。 3) 対象者の強みが理解できる。
3. 対象者の健康レベル、健康障害と生活習慣・生活歴・現在の生活の関連を考慮することができる。	1) 対象者の健康障害（病状・症状）・治療を病態生理から理解できる。 2) 対象者の健康障害とこれまでの生活・現在の生活・今後の生活の関連がわかる。 3) 対象者の看護を考慮の上で必要な情報収集が出来る。
4. 対象者に応じた看護の方向性を考えることができる。	1) 対象者の現在の生活や、健康を害している原因、誘因、今後起こりうる問題について関連性を考えアセスメント（解釈と分析）できる。 2) 対象者の看護上の問題が明確化でき、優先順位を考慮することができる。 3) 対象者の状態に応じて、期待する結果が、設定できる。
5. 対象者の状態に応じた援助計画が立案でき、実践ができる。	1) 期待する結果を達成するための看護計画が立案できる。 2) 本日の実習目標が対象者の状態に応じて具体的に設定できる。 3) 対象者の状態や状況に合わせた観察が、フィジカルイグザミネーションを活用して適切にできる。 4) 観察して得た情報から対象者の状態をアセスメントできる。 5) 対象者の状態から、今必要な看護が理解できる。 6) 対象者の状態から必要な看護が、今実施可能な状況か判断できる。 7) 対象者の状態に応じた援助が、根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。 8) 対象者に必要な指導ができる。 9) 実践した結果（検温・援助の結果、患者・家族から得た情報など）を、報告できる。 10) 実施した結果を期待する結果に基づいて評価し、計画を修正できる。
6. 看護を行なう者としての基本的態度を養う。	1) 時間・約束事が厳守できる。 2) 適切な言葉遣いができる。 3) 対象者の立場や気持ちを理解しようとする姿勢で接することができる。 4) 自分の行動が相手にどう影響するかを考えて行動できる。 5) グループメンバー・指導者の意見に耳を傾け、その上で自分の考えを述べる ことができる。 6) グループ・医療チームの一員としての役割を考え、行動することができる。 7) 主体的・意欲的に学習に取り組むことができる。 8) 実習の進行状況に応じた自己学習がおこなえる。

老年看護学実習

1. 実習目的

老年期の対象者を総合的に理解し、健康上に問題のある高齢者およびその家族の看護を実践できる基礎的能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 対象者の生活史や健康観・外観から、高齢者像を捉えることができる。
- 2) 対象者の日常生活行動、健康状況を把握し生活背景・生活習慣との関連を理解する。
- 3) 対象者の日常生活レベルに応じた健康の維持・健康障害予防のための日常生活援助ができる。
- 4) 健康障害の複雑さ・多様性を理解し、健康障害のレベルに応じた援助ができる。
- 5) 高齢者と家族の関係を理解し、家族のおかれている状況を理解する。
- 6) 対象者及び家族が利用できる社会資源について理解する。
- 7) 対象者の生活信条・信念・価値観を尊重した行動がとれる。

3. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
3年次	老年看護学実習A	a. 介護老人保健施設	2日間	2単位(90時間)
		b. 介護老人福祉施設	1日間	
	老年看護学実習B	病院実習	9日間	

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者がA B C Dで総合的に評価を行う。

老年看護学実習A

1) 目的

地域で生活する高齢者の実習を通して、日常生活援助を学ぶとともに、保健・医療・福祉の役割を学ぶ。

2) 目標

- (1) 高齢者の生活を通して、対象の理解を深める。
- (2) 高齢者を取り巻く社会福祉の現状を理解できる。
- (3) 地域・施設で生活する高齢者への援助が理解できる。
- (4) 高齢者とかかわる中で、自己の老年観を養う。

a. 介護老人保健施設における高齢者の看護

1) 目的

- (1) 高齢者の特徴と健康レベルを把握し、対象者に応じた援助を学ぶ。
- (2) 高齢者に適用されている社会資源の実際を学び、老年看護のあり方を考えられる。

2) 目標

- (1) 介護老人保健施設における役割と機能の実際が理解できる。
- (2) 対象者の身体的・心理的・社会的（家族を含む）側面が理解できる。
- (3) 対象者の基本的ニーズを捉え、機能の維持・回復を考慮した日常生活への援助が考えられる。
- (4) 認知症に伴う症状への対処方法が理解できる。
- (5) 対象者の人生観、価値観を大切にし、人生の先輩として尊重する態度で接することができる。

3) 行動目標

実習目標	行動目標
1. 介護老人保健施設における役割と機能の実際が理解できる。	1) 機能訓練・レクリエーションを通して家庭復帰への中間的施設にあることがいえる。 2) 介護老人保健施設における保健・福祉・医療メンバーの役割が理解できる。
2. 対象者の健康障害・廃用症候群の程度が理解できる。	1) 対象者の健康障害の程度が理解できる。 2) 対象者の廃用症候群の程度が理解できる。 3) 認知症症状の理解ができる。 3) 家族背景を理解できる。 4) 対象者の思いが考えられる。
3. 対象者の基本的ニーズを捉え、機能の維持・回復を考慮した日常生活への援助が考えられる。	1) 対象者の生活を支える援助の必要性がわかる。 2) 対象者のもてる力を生かした援助が考えられる。 3) もてる力を生かした援助が指導者とともにできる。 4) 援助時に事故防止ができる。
4. 対象者の人生観、価値観を大切に、人生の先輩として尊重する態度で接することができる。	1) 対象者に対して関心をもち、話を聞こうとする姿勢が持てる。 2) 対象者の生活ペースを守りながら接することができる。

b. 介護老人福祉施設における老年者の理解と看護

1) 目的

- (1) 高齢者の特徴と対象の状態を把握し、対象に応じた援助を学ぶ。
- (2) 高齢者に適用されている社会資源の実際を学び、老年看護のあり方を考えられる。

2) 目標

- (1) 介護老人福祉施設の役割と機能が理解できる。
- (2) 対象者にとって望ましい生活環境について考えることができる。
- (3) 対象者の基本的ニーズを捉え、機能の維持・回復を考慮した日常生活援助が考えられる。
- (4) 被爆者とのかかわりを通して、高齢者の思いを考えることができる。
- (5) 対象者の人生観、価値観を大切にし、人生の先輩として尊重する態度で接することができる。

3) 行動目標

実習目標	行動目標
1. 介護老人福祉施設の役割と機能が理解できる。	1) 施設の必要性が理解できる。 2) 生活を支える職種と役割について理解できる。
2. 対象者にとって望ましい生活環境について考えることができる。	1) 対象者の生活環境の実際を知り、対象者にとって望ましい生活環境について考え、考えを述べられる。
3. 対象者の基本的ニーズを捉え、機能の維持・回復を考慮した日常生活への援助が考えられる。	1) 対象者のもてる力を活かした援助を考え、指導者とともにできる。 2) 援助時に事故防止ができる。 3) 健康教育の必要性が理解できる。
4. 被爆者とのかかわりを通して、高齢者の思いを考えることができる。	1) 入所者、デイ参加者に被爆体験を聞かせていただき、高齢者の思いについて考えたことを述べられる。
5. 対象者の人生観、価値観を大切にし、人生の先輩として尊重する態度で接することができる。	1) 対象者に対して関心をもち、話を聞こうとする姿勢を持てる。 2) 対象者の生活ペースを守りながら接することができる。

老年看護学実習 B

1. 目的

健康障害のある高齢者を総合的に理解し、対象者およびその家族に応じた看護の実践ができる。

2. 目標

- 1) 老年期にある対象者の発達課題、老化現象を身体的・心理的・社会的（家族を含む）側面から理解できる。
- 2) 対象者の看護に必要な情報収集とアセスメントできる。
- 3) 老年期にある対象者の健康障害に応じた看護計画を立案・実践できる。
- 4) 立案した看護計画を評価・修正できる。
- 5) 対象者の生活信条や価値観を大切にしたい援助が考えられる。
- 6) 高齢者を尊重し、看護を行う者としての基本的態度を養う。

3. 行動目標

実習目標	行動目標
1. 老年期にある対象者の発達課題、老化現象を身体的・心理的・社会的（家族を含む）側面から理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の発達課題が理解できる。 2) 対象者の老化現象を捉え、日常生活に及ぼす影響が理解できる。 3) 対象者の社会的側面を捉えることができ、サポートシステム（家族・地域）を理解できる。 4) 老化現象には個人差があることが理解できる。
2. 対象者の看護に必要な情報収集とアセスメントができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の思い（病状・治療への思い）がわかる。 2) 対象者の健康障害について理解できる。 3) 対象者の看護に必要な情報収集と整理ができる。 4) 対象者の現在の生活や健康障害の原因・成り行きについて関連性を考えアセスメントできる。 5) 対象者の看護上の問題と、もてる力が明確化できる。
3. 老年期にある対象者の健康障害に応じた看護計画を立案・実践できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の状況に適した看護目標と期待する結果を挙げられる。 2) 対象者の個別性をふまえて看護計画が立案できる。 3) 対象者の生活しやすい環境を整えることができ、また事故防止をすることができる。 4) 対象者の状態や状況に応じた観察ができる。 5) 対象者の状態や状況の報告ができる。 6) 日常生活援助が安全・安楽に実施できる。 7) 対象者の「もてる力」を活用した援助が実施できる。 8) 対象者の特徴をふまえて、対象者の状態や状況に応じたコミュニケーションを図ることができる。
4. 立案した看護計画を評価・修正できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実施した結果より、看護計画の評価・修正ができる。
5. 対象者の生活信条や価値観を大切にしたい援助が考えられる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) その人らしい生活が送れるように援助を考えられる。
6. 高齢者を尊重し、看護を行う者としての基本的態度を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者を尊重した態度で接することができる。 2) 適切な言葉使いができる。 3) 高齢者の看護に対する学び・課題を具体的に記述できる。

小児看護学実習

1. 実習目的

子どもの成長・発達を理解し、成長・発達に応じた児の保育と、健康障害がある子どもと家族に対する適切な看護を学ぶ。(実践と結びつけ・実践的能力を養う)

2. 実習目標

- 1) 子どもの成長・発達を理解し、特徴をとらえることができる。
- 2) 子どもの成長・発達に応じた日常生活について理解できる。
- 3) 健康障害が子どもに及ぼす影響を理解し、必要な看護援助を考えることができる。
- 4) 健康障害がある子どもの家族に対する看護の必要性が理解できる。
- 5) 子どもの健康の保持・増進、健全な成長を促進するための看護師の役割が理解できる。
- 6) 看護師が子どもに与える影響を考え、看護師に必要な態度について考えることができる。

3. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
3年次	小児看護学実習	保育園	3日間	2単位(90時間)
		総合周産期母子医療センター	1日間	
		小児科外来	1日間	
		小児病棟	7日間	

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者が ABCD で総合的に評価を行う。

5. 保育園実習

1) 目的

乳幼児の成長・発達が理解できる。

2) 目標

- (1) 乳幼児の成長・発達を知る。
- (2) 乳幼児の生活を知る。
- (3) 乳幼児個々に合った日常生活の援助のあり方、発達に応じた保育のあり方を考えることができる。

3) 行動目標

実習目標	行動目標
1. 乳幼児の成長・発達を知る。	1) 乳幼児の成長・発達を標準値と比較し理解できる。 2) 乳幼児をとりまく環境や家庭のあり方が、乳幼児の成長・発達に及ぼす影響を考える。
2. 乳幼児の生活を知る。	1) 乳幼児の1日の生活の様子を知る。 2) 成長・発達に基づく保育を保育士とともに実施する。
3. 乳幼児個々に合った日常生活の援助のあり方、発達に応じた保育のあり方考えることができる。	1) 集団保育において、乳幼児が成長発達をとげるためにどのような働きかけが必要か考える。 2) 食事・排泄・清潔・睡眠など基本的な生活習慣への援助について理解する。 3) 遊び場・プレイルーム等の危険防止策について理解する。 4) おもちゃ、その他の用具の管理を理解する。 5) 安全についての教育を理解する。 6) 日常の健康管理について理解する。 7) 伝染性疾患の対策について理解する。

6. 小児病棟実習

1) 目的

小児各期の子どもの特徴を理解し、各健康レベルにある子どもと家族に必要な看護が理解できる。

2) 目標

- (1) 患児の成長・発達をとらえ、それに対する援助方法を考えることができる。
- (2) 入院による環境の変化が、患児に及ぼす影響について考えることができる。
- (3) 患児の疾患について病態生理・症状・治療内容等が理解できる。
- (4) 患児の健康レベルに応じた援助が実施できる。
- (5) 家族を含めた看護について考えることができる。
- (6) 患児の安全を守るために必要な事故防止ができる。
- (7) 小児看護における看護師の役割について考えることができる。

3) 行動目標

実習目標	行動目標
1. 患児の成長・発達をとらえ、それに対する援助方法を考えることができる。	1) 子どもとのコミュニケーションのとり方がわかる。 2) 患児の成長、発達段階がわかる。 3) 患児の養護と日常生活の援助の必要性がわかる。
2. 入院による環境の変化が患児に及ぼす影響について考えることができる。	1) 入院前後の生活の変化がわかる。 2) 疾病や入院が患児の家族に及ぼす影響について考える。
3. 患児の疾病についての病態生理、症状治療内容等が理解できる。	1) 健康障害の種類、程度がわかる。 2) 疾病によって引き起こされている症状と、阻害されている欲求について考えることができる。 3) 治療内容と、患児・家族の受容状況が理解できる。
4. 患児の健康レベルに応じた援助を考えることができる。	1) 患児の運動機能の発達、精神発達、情緒発達、社会性の発達を促す働きかけが考えられる。 2) 患児に適切な方法で養護と日常生活の援助への働きかけができる。 3) 発達の援助を母親と共有できる。 4) 成長発達をふまえたケアの方針とケアの計画が考えられる。 5) 安全・安楽に援助を実施し、患児の反応をもとに評価できる。
5. 家族を含めた看護について考えることができる。	1) 家族との関わりが患児の援助に及ぼす影響について考えることができる。 2) 家族・患児の双方が小児看護の対象になることを理解できる。
6. 患児の安全を守るために必要な事故防止ができる。	1) 子どもに起こりやすい事故を予測し環境の整備ができる。 2) 患児へ安全教育ができる。
7. 小児看護における看護師の役割について考えることができる。	1) 看護師の役割について、自己の考えを述べるができる。

7. 小児科外来実習

1) 目的

子どもの健康の保持・増進、健全な成長を促進するための看護師の役割が理解できる。

2) 目標

- (1) 外来で行われている処置、検査、治療を見学し、必要な援助を考えることができる。
- (2) 受診に至るまでと診察中の患児、家族の思いについて考えることができる。

3) 行動目標

実習目標	行動目標
1. 外来で行われている処置、検査、治療を見学し必要な援助を考えることができる。	1) 処置、検査、治療を受ける患児の反応を観察する。 2) 処置、検査、治療に対する苦痛、不安を理解できる。 3) 必要な援助を考える事ができる。
2. 受診に至るまでと診察中の患児、家族の思いについて考えることができる。	1) 病院に対する患児、家族の恐怖、不安を考えることができる。 2) 診察を受ける患児、家族の心理状態を考えることができる。

8. 総合周産期母子医療センター実習

1) 目的

低出生体重児（医療的処置が必要な新生児）とその家族に対する看護について理解できる。

2) 目標

低出生体重児（医療的処置が必要な新生児）の生理的特徴を理解し、看護の実際が理解できる。

3) 行動目標

実習目標	行動目標
1. 低出生体重児（医療的処置が必要な新生児）の生理的特徴を理解し、看護の実際が理解できる。	1) 低出生体重児の特徴が言える。 2) 低出生体重児の看護の原則が言える。 3) 低出生体重児（医療的処置が必要な新生児）の観察と必要な看護が言える。 4) 低出生体重児におこりやすい障害が理解できる。 5) 総合周産期母子医療センターにおける管理が理解できる。

母性看護学実習

1. 実習目的

妊・産・褥婦及び新生児の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、適切な看護を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 妊娠によって起こる母体の生理的変化と胎児の発育状況を知り、妊娠中の健康管理の実際が理解できる。
- 2) 分娩各期の経過と母体の生理的変化を理解し、分娩経過に応じた看護が理解できる。
- 3) 産褥期の生理的変化を理解し、褥婦に必要な看護と保健指導が理解できる。
- 4) 新生児の生理的特徴を理解し、必要な看護が理解できる。

3. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
3年次	母性看護学実習	産科外来	2日間	2単位(90時間)
		分娩室	2日間	
		新生児室	2日間	
		褥室	6日間	

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 行動目標

- 1) 産科・産婦人科外来
 - (1) 産科・産婦人科外来の特殊性が説明できる。
 - (2) 妊娠によって起こる母体の生理的変化と胎児の発育状況が言える。
 - (3) 妊婦健診の必要性が理解できる。
 - (4) 外来における保健指導の必要性が言える。
- 2) 分娩室
 - (1) 分娩経過の観察ができる。
 - (2) 分娩経過に応じた看護を考えることができる。
 - (3) 家族を含めた看護の必要性が理解できる。
- 3) 褥室
 - (1) 産褥期の経過と母体の生理的変化が理解できる。
 - (2) 産褥期に必要な基本的看護援助が理解できる。
 - (3) 対象とする母子の全体像が理解でき、必要な看護援助を考えることができる。
 - (4) 援助計画に沿って実施できる。
 - (5) 実施した看護について評価・修正ができる。
 - (6) 褥婦の進行性・退行性変化に対する観察と援助ができる。
 - (7) 褥婦に必要な指導ができる。
- 4) 新生児室
 - (1) 新生児の生理的変化が理解できる。
 - (2) 新生児に必要な看護が理解できる。

5. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者が ABCD で総合的に評価を行う。

精神看護学実習

1. 実習目的

- 1) 「心を病む人」を身体的・心理的・社会的に統合された人として理解し、精神看護における基礎的知識・技術・態度を学ぶ。
- 2) 精神看護の対象となる人を尊重し、看護者としての倫理的態度を養う。

2. 実習目標

- 1) 精神看護の対象及び精神看護の場を理解する。
- 2) 治療的環境の意味を知り、その中での看護師の役割を理解する。
- 3) 「心を病む人」の内的世界を理解し、対象を尊重し接することができる。
- 4) 対象の「その人らしさ」を尊重しながら日常生活の援助を行い、対象との治療的コミュニケーションを促進する。
- 5) 精神症状に応じた治療内容と患者への対応を理解する。
- 6) 患者との関わりを振り返ることにより、自己理解ができる。
- 7) ノーマライゼーションの考えをもとに、地域社会における精神看護の役割を理解する。
- 8) 精神看護の役割と機能を施設内から社会に開かれたものとして継続看護のあり方を理解する。

3. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
3年次	精神看護学実習	病院実習	10日間	2単位(90時間)
		デイケア・地域生活支援に関する施設	1日間	
		精神科訪問看護ステーション	1日間	

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者が ABCD で総合的に評価を行う。

5. 病院実習

1) 実習目的

- (1) 入院治療を受けている患者を理解し、治療的な関わりを通して患者を尊重し安全を考えた看護を学ぶ。
- (2) 患者との関わり場面から、自己の関わり方について考えることができる。

2) 実習目標

- (1) 患者のセルフケア能力に与える影響を身体的・心理的・社会的側面から査定し、日常生活の援助ができる。
 - ①患者の生育歴を知り、精神症状の出現と危機内容が理解できる。
 - ②身体的・心理的・社会的側面から全体像を把握できる。
 - ③精神症状に応じた治療目的と内容を理解して観察し、対応ができる。
 - ④精神症状や発達課題が患者に日常生活に与える影響が理解できる。
 - ⑤セルフケア能力に応じた日常生活行動の援助を実施し、評価できる。
 - ⑥患者に関する情報や看護目標を看護チームで共有できる。

(2) 治療的コミュニケーション技法を活用し、患者の内的世界を理解すると共に、患者の安全や保護を考えた対応ができる。

①誠意ある態度で接し、患者を尊重することができる。

②患者と適切な距離をとり、生活行動を共にできる。

③傾聴や共感することで患者の気持ちを理解する。

④患者の体験している内的世界について知り、患者に生じている精神症状について理解できる。

⑤患者の安全や保護を考えた対応ができる。

(3) プロセスレコードを用いて、自己の関わり方について考えることができる。

①その時の思考や感情に気づき、患者と自己の言動の分析ができる。

6. デイケア・地域生活支援に関する施設

1) 実習目的：デイケアや地域生活を支援する施設の必要性和看護を学ぶ。

2) 実習目標

(1) デイケアで利用者との関わりを通して、プログラム等への取り組みや社会復帰の現状を知る。

(2) デイケアにおける看護師の役割が理解できる。

(3) 関連する職種、施設における連携が理解できる。

(4) 地域生活支援に関する施設の概要を知る。

(5) デイケアや地域生活を支援する施設の利用者との関わりや説明を通して、精神障害者の心の問題・生活の問題を知る。

7. 精神科訪問看護ステーション

1) 実習目的：地域生活の継続を支援するための訪問看護の必要性和看護師の役割を学ぶ。

2) 実習目標

(1) 地域での利用者と家族の生活環境や生活状況が理解できる。

(2) 精神障害者への訪問看護の必要性和看護師の役割が理解できる。

(3) 関連する職種、施設における連携が理解できる。

在宅看護論実習

1. 実習目的

地域におけるケアシステムの概要を知り、生活しながら療養する人とその家族に対し、地域の特殊性や生活状況をふまえて、対象者及び家族の状態に応じた看護を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 在宅看護の実際の場面で活動の概略をとらえることができる。
- 2) 生活環境や生活習慣に応じた在宅看護を理解できる。
 - (1) 対象者と家族の生活そのものもつ意味を理解できる。
 - (2) 対象者と家族の療養上の問題を明らかにできる。
 - (3) 対象者と家族に必要な援助が理解できる。
 - (4) 対象者を中心とした在宅ケアシステムが明らかにできる。
 - (5) 訪問時の基本的態度を身につける。
 - (6) 保健・医療・福祉の連携と地域におけるケアシステムの実践が理解できる。
 - (7) 施設内看護と比較することにより、看護の概念が広げられる。
- 3) 施設から地域への連携体制を知り、継続看護の実践が理解できる。

3. 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数(時間数)
3年次	在宅看護論 実習	訪問看護ステーション	5日間	2単位(90時間)
		合同カンファレンス	1日間	
		身体障害者更生相談所 / 自立訓練施設	1日間	
		心身障害者福祉センター	1日間	
		ヘルパーステーション	4時間	
		医療支援センター	1日間	
		保健・医療・福祉の統合施設	1日間	
		地域包括支援センター	4時間	
		保健センター	4時間	

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者がABCDで総合的に評価を行う。

5. 実習内容及び方法

1) 訪問看護ステーション

(1) 目的：訪問看護の実際の場面から、対象者とその家族の療養生活の様子を知り、在宅看護における訪問看護師の役割と機能を理解する。

(2) 目標：①療養者とその家族を：生活者としてとらえることができる。

- ・ 疾病や障害と生活のつながりの実際を知る。

- ・ 生活の質を考慮した援助方法を学ぶ。

- ・ 環境と療養生活のつながりを学ぶ。

②療養者の疾患・障害・治療を理解する。

③在宅療養者とその家族の抱える問題を解決するための援助方法を学ぶ。

- ・ 家族全体の問題としてとらえる重要性を知る。

- ・ ケアプランを理解する。

- ・ 介護負担軽減のための計画をする。

- ・ 在宅看護における看護師の役割が理解できる。

④社会資源の活用方法と関係職種との連携について理解できる。

- ・必要な社会資源の種類と役割を理解する。
- ・社会資源の導入方法を把握する。
- ・経済性を考慮した社会資源の組み合わせ方法を知る。
- ・関係する職職の種類を知る。
- ・他機関・他職種との連携の必要性を理解する。
- ・ネットワークの作り方を知る。

⑤訪問時の基本的態度を身につける。

⑥施設内看護と比較することにより、看護の概念が広げられる。

⑦体験した事例から自己の考えをまとめることができる。

⑧自己の考えをカンファレンスでわかりやすく述べるができる。

⑨カンファレンスにおいて意見交換することで自己の考えを深めることができる。

(3) 内容

i 訪問看護ステーション実習

①訪問は、原則1日1件とする。(但し、訪問看護ステーションの状況によっては、この限りではない。)

②受け持ち療養者は1名とし、療養者に必要な看護についてのアセスメントを行い、現在行われている看護と今後予測されることについて、看護師の役割を考察する。

ii 合同カンファレンス(学内)

①受け持ち療養者の事例に基づき、訪問看護師の役割についてテーマカンファレンスを行う。

2) 身体障害者更生相談所 / 自立訓練施設

(1) 目的: 身体に障害のある人々への理解を深め、障害のある人々に対する支援のあり方と社会資源の実際を学ぶ。

(2) 目標: ①身体に障害のある人々を取り巻く環境について考えることができる。

②身体に障害のある人々の社会復帰への自立と社会参加への支援のあり方が理解できる。

③身体に障害のある人々に対する看護職の役割を考えることができる。

④施設での他職種間での連携の重要性が理解できる。

3) 心身障害者福祉センター

(1) 目的: 心身に障害のある人々への理解を深め、障害のある人々に対する支援のあり方と社会資源の実際を学ぶ。

(2) 目標: ①心身に障害のある人々の視点で取り巻く環境について考えることができる。

②心身に障害のある人々の社会参加への活動の実際と支援のあり方を理解できる。

③心身に障害のある人々に対する看護職の役割を考えることができる。

4) ヘルパーステーション

(1) 目的: 訪問介護を利用している療養者や家族の生活を知り、身体介護、家事援助のあり方と援助の実際を学ぶ。

(2) 目標: ①療養者と家族を生活者としてとらえることができる。

②療養者と家族にとっての生活が理解できる。

③ホームヘルパーの役割が理解できる。

④看護職の役割について自己の考えが深められる。

5) 医療支援センター

(1) 目的: 医療支援センターの役割や機能を知り、施設と地域間の医療連携の実際を学ぶ。

(2) 目標: ①地域との医療連携体制が理解できる。

②施設から地域への医療連携の実際を学ぶ。

③医療連携における看護師の役割が理解できる。

④継続看護における連携の必要性と今後の課題を学ぶ。

6) 保健・医療・福祉の統合施設

(1) 目的：地域包括ケアシステムの実際がどのように運営されているかを知り、保健・医療・福祉の連携の中で看護の役割について考えを深める。

(2) 目標：①地域包括ケアシステムの概要を知る。

②保健・医療・福祉の連携がどのように行なわれているか、その実際を知る。

③それぞれの施設に勤務する看護師の機能と役割について理解する。

④地域包括ケアシステムにおける看護の役割について自己の考えを深める。

7) 地域包括支援センター

(1) 目的：地域で介護が必要な高齢者やその家族への支援について学ぶ。

(2) 目標：①地域包括支援センターの機能と役割について理解できる。

②地域包括支援センターの実際について知る。

8) 保健センター

(1) 目的：地域看護の実際を知り、看護の継続性について考える。

(2) 目標：①地域の概要をふまえ、住民の健康を守るための保健医療福祉の施策について知る。

②保健センターの役割と機能について知る。

③地域の状況に応じた保健師活動について知る。

④地域における継続看護、社会資源、関係職種との連携について知る。

統合看護実習

1 実習目的

医療チームの一員としての役割と責任を自覚し、既習の知識・技術を統合して看護実践に活かす能力を養うとともに、病棟管理の実際と看護の継続性について学ぶ。

2 実習目標

- 1) 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を学ぶ。
- 2) 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。
- 3) 病棟における看護管理の実際を体験し、看護師としての責任と自覚を養う。
- 4) チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を学ぶ。

3 実習の構成

時期	区分	実習場所	期間	単位数 (時間数)
3年次	統合看護実習	病院実習	10日間	2単位 (90時間)
		学内演習 (客観的臨床判断能力試験)	2日	

*実習時間には、実習ゼミ時間も含む

4. 評価方法

評価表にある評価項目ごとに、自己及び看護教員・臨床指導者が ABCD で総合的に評価を行う。

5. 行動目標

実習目標	行動目標
1. 病院・病棟での看護管理を理解し、看護師としての責任と自覚を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病院、看護部の理念、病棟目標設定の関連について理解する。 2) 病棟 (病院) におけるリスクマネジメントについて理解する。 3) 看護部組織・病棟職員構成要員とその役割を理解する。 4) 病棟の看護管理・運用について理解する。 5) 病棟構成員のマネジメント・教育体制を理解する。 6) 病棟の物品の管理運用を理解する。 7) 患者に関する諸手続きを理解する。 8) 患者へのサービスマネジメントを理解する。 9) 患者の情報共有と管理について理解する。
2. 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) リーダー看護師の役割と業務内容が理解できる。 2) メンバー看護師の役割と業務内容が理解できる。 3) 夜勤の看護師の役割と業務内容が理解できる。 4) 勤務間での継続看護の実際を知る。
3. 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者 (複数) の状態把握と、援助の優先順位が考えられる。 2) 患者に必要な援助が提供できる。 3) 適切な時期に的確な報告・連絡・相談ができる。
4. チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関連部門との連絡調整を理解する。 2) 他部門との連絡調整を理解する。